

令和二年度 前期日程 入学者選抜学力検査問題
国語 解答例

一

問一 ①警鐘 ②妥当 ③確固 ④翻弄 ⑤交錯

問二 I 世間でさかんにいいはやされている

II 議論の前提としてすでに自明とされているもの

問三 妖術や精霊は当の社会において、社会統合に役立ったり、社会的な緊張を和らげたり、あるいは社会変化に対する人びとの不安や葛藤を表現するといった機能を果たしているのだ(八十字)

「果たしているのだ」※「果たしている」も可 ※(七十字)

問四 フィールドの人びとと、自分自身との間には絶対的な差異があることを認め、彼らにとっての現実を、安易に自分たちにとっての現実には置き換えるのではなく、ありのままに尊重すること。

問五 フィールドの人びとと同じように、人類者もまた、個人の実践をおした世界との関係性のなかで、いくつもの相矛盾する恐れや疑いによって経験を更新し、自身の思考と言語の潜在力に気づく可能性がひらかれているということ。

二

問一 ア 残すところなくすみからすみまで考えて

イ はつきりとは理解できないだろう

ウ わかりやすいように

エ 言葉をあれこれと手直ししてしまうと(手直ししているのだ)

問二 (炎天の中で思い浮かぶ)冬の雪景色や、(厳寒の中で思い浮かぶ)夏の納涼や夏の月の景色。

問三 歌に詠もうとする題を心にひたすら思い浮かべれば、その情景が自ずから頭に浮かんでくる。その思いをそのまま歌にすれば良い、ということ。(六十六字)

三

問一 ①かならずしも ② ついに ③ もし ④ のみ ⑤ なかれ(と)

問二 私を供養するのに、どうして河豚を用いないのか。

問三 これにあらざればなにをもってしようけんせんや(と)。

問四 親の希望にしたがって、博打の道具を棺の中に入れること。

問五 事々に古いききたりにしたがいがいながら、親を思う気持ちはいい加減な者が私は嫌いだ。